



学校教育目標

「人を大切に、物を大切に、時を大切に」
～誇りの持てる学校に、誇りの持てる自分に～

4月からの学校生活の成果を！

4月、新入生を迎えて、平成30年度の桂川中学校がスタートしました。授業は勿論、生徒会活動や部活動、さまざま学年の取組。そして、日々の友だちや先生方との関わりの中で、生徒一人一人が自分自身を磨いてきました。「集中すること、人の話に誠実に耳を傾けること、我慢すること、粘り強く取り組むこと、最後まであきらめないこと、何が大切かしっかり考えること、主体性を持つこと、一生懸命ひたむきに取り組むこと、できた喜びを感じること・・・」、学校生活を通して、多くのことを学び、成長してきははずです。「体育大会」や「合唱コンクール」は、行事を通して感動や連帯感、充実感や達成感を味わうという大切な意味もありますが、日々の生活の中で、自分が、また学級や学年が意識して取り組んできたことの成果や自分たちの成長を確かめる場もあります。保護者の皆様、地域の皆様、生徒たちの全力プレー・全力疾走、心に響くハーモニー届けたい思いなど、日ごろの学校生活の成果をご覧いただき、心温まるご声援と励ましの言葉をいただけましたら幸いです。



昨年の「体育大会」「合唱コンクール」より

幕末に生きた吉田松陰の考え方や生き方を著わした「覚悟の磨き方」と言う本に素敵な一節がありましたので紹介します。

「動きながら準備する」

やろう、と閃く（ひらめく）。その時「今やろう」腰を上げるか、「そのうちに」と一旦忘れるか。やろうと思ったときに、何かきっかけとなる行動を起こす。それができない人は、いつになんでも始めることができない。むしろ次第に、「まだ準備ができていない」という思い込みのほうが強くなっていく。いつの日か、十分な知識・道具・技術・資金・やろうという気力・いけるという予感・やりきれる体力・そのすべてが完璧にそろう時期がやってくると信じてしまうのだ。だが、いくら準備をしてもそれらが事の成否を決めることはない。いかに素早く一步目を踏み出せるか。いかに多くの問題点に気づけるか。いかに丁寧に改善できるか。少しでも成功に近づけるためにできることは、その工夫しかない。よく行動する人は、知識は必要最低限でいいと考える。なぜなら、実際に動く前にわかることなんて、ほとんどないと知っているからである。だから、よく失敗する。だがそれで「順調」だと思っている。そのように私たちの脳は、自分の行動をうまく正当化するようにつくられている。小さくても「一步踏み出す」という行為さえ続ければ、「なぜこれが正しいのか」脳が勝手に理由を集めてくれる。吉田松陰は、行動につながらない学問は無意味だと考えた。大切なのは、不安をなくすことではない。いかに早く、多くの失敗を重ねることができるか。そして、「未来はいくらでも自分の手で生み出すことができる」という自信を、休むことなく生み続けることなのである。